

演題名	長野県における豚の生殖器・呼吸器症候群（PRRS）の初発生事例		
発表者 氏名	浅 樋 一 郎	所 属	飯田家畜保健衛生所
<p>1994年1月、管内の一貫経営養豚場（繁殖豚60頭飼育）において、腹式呼吸を主徴として離乳子豚150頭のうち約40頭が死亡（死亡率26%）。同年2月、依頼により発症豚2頭について病性鑑定を実施。</p> <p>その結果、病理組織所見として間質性肺炎、非化膿性心筋炎、髄膜脳炎が認められ、ウイルス検査では、血清からPRRSウイルスを分離。また、発症豚と同居していた豚8例すべて及び繁殖母豚13例中5例にPRRS抗体を確認。</p> <p>以上の結果から、本症例をPRRSと診断し、畜舎消毒の徹底、感染豚の早期発見と完全隔離、有効薬剤の投与等衛生対策を重点に実施するよう指導したところ、発症豚及び死亡豚の発生はみられなくなった。</p> <p>さらに同年3月、農場全体のPRRS浸潤状況を調査するため、離乳子豚15例、肥育豚20例及び繁殖豚23例の合計58例について抗体検査を実施した結果、抗体陽性率は離乳子豚73.3%、肥育豚55.0%、繁殖豚43.5%であり、離乳子豚で陽性率が高い傾向が認められた。</p>			